

## 我孫子で農業 相馬英里さん

以前は学校で栄養士をしていました。8年前に仕事を辞めて、成田で2年間、有機農業の研修を受けました。研修が終わると、夫も勤めていた会社を辞めて2人で就農。我孫子で**そうま農園**を始めました。農業を選んだ理由はいろいろありますが、**食べるのが好き**というのもその一つ(笑)。

我孫子では、多種類の野菜を少しずつ作る少量多品目栽培に取り組みやすいと感じています。昔、この辺りからいろんな野菜を携え東京へ行商に行っていたそうですが、その頃からの流れかもしれませんね。**あびこ農産物直売所あびこん**にも納入しています。**そうま農園**といえは**長芋**と言われるようにしたいです。あびこんの地元野菜は、遠くの市場を経由して運ばれてくるものに比べて、畑から店までの時間も距離も短く、その分、新鮮です。

農業は定収入はなく、頑張らないと儲からない仕事。でも、もし頑張ったら、もしかしたら実を結ぶかも。



## 福祉で働く 栗原千鶴さん

私の勤務している**社会福祉法人つくばね会**は、障害者(児)の就労・生活・相談など幅広く障害者の支援を行っています。学生時代、ボランティアで障害者の方々と過ごす時間に生きがいを感じ、就職を決めました。12年間の福祉現場勤務を経て、15年前つくばね会に転職。事務局で法人の運営・会計・総務の仕事をしています。

27年の間に結婚し母となり、**働き続けることの困難さ**も体験しました。家族や職場の理解に助けられ、**大好きな仕事を続ける**ことができました。小さなことかもしれませんが、**今の自分ができることをコツコツと日々積み上げていく**。そうすれば、**明日という未来はしっかりと固まっていく**と感じています。福祉に携わるには高邁な志が必要と思うかもしれませんが、**人を大切に思う気持ち**さえあれば、そのことを見失わずにいれば、やりがいをもって続けられる仕事です。



### 働きながら大学院へ 中野きよみさん



東京で正社員として働いています。月曜から金曜の 9時半から 17時半まで、我孫子から職場まで電車で片道1時間ほど。働き続けていて一番、良かったと思えることは**経済的に自立できていること**です。

働きながら、**大学院の社会人入学制度**で 2年間学びました。学んだのはジェンダー学です。社会人として日々生活していく中で、小さな疑問が徐々に大きくなり、猛烈に知りたい・学びたいと思ったのがジェンダーに関することでした。社会人に配慮された時間設定で、1年目は月曜の夜と土曜の終日、2年目は土曜のゼミが中心でした。

**仕事と学校の授業・課題の両立**は、思っていた以上に大変でしたが、新しい知識を得る喜びのほうがそれに勝りました。苦しみながらも修士論文を書き上げられた**達成感**は、**これからの人生を送るうえで大きな励みと力になる**と思います。自分なりに取り組んでいきたい課題を見つけたと感じています。

### 地域で活動する 柳川眞佐子さん

夫がいわゆる転勤族で、12回転居しました。我孫子には 20年前から住み、さまざまな**市民活動に参画**してきました。最初は男女共同参画団体**あびこ女性会議**。そして 3年前にひとり親の自助グループ**すずらんの会**を手伝ったのがきっかけで、子どもの支援に活動の幅を広げました。市外でも、10数年前に松戸市を拠点とする **G.Planning**というジェンダー平等実現を目指す団体を作りました。この仲間たちとはアメリカ、北欧など海外研修も実施しました。



市民活動は思いさえあれば、誰でも、いつからでも、仲間と共に学び、課題解決に一役買える場所です。しかし、**やればやるほど課題が見えてくるというのが難しいところ**。男女共同参画でいえば、私の関わり始めた当初と比べ男女格差がなくなった部分もありますが、依然として差別が残っている部分、改めて認識させられた部分が多数あります。これからも学んでいきたいし、やらねばならないことが残されていると思います。